

地域医療連携部

1. スタッフ（平成25年4月1日現在）

部長	長谷川 剛（教授）（兼務）	
副部長	前原多鶴子（保健師）（兼務）	
部付	松下 正弘（事務）（兼務）	
	（看護支援室）	
保健師		2名
助産師		1名
看護師		4名（内兼務2名）
	（総合相談室）	
室長心得		1名
医療ソーシャルワーカー		7名
	（病診連携室）	
事務		5名（内兼務1名）

2. 地域医療連携部の特徴

今日の医療が各医療機関のみの自己完結型から、地域全体で連携・機能分担する事によって患者を支える「地域完結型」に移行していることを踏まえて、地域の医療機関・介護福祉機関・行政機関等との連携を充実・強化することを目的に、平成20年4月1日付で医師、看護師、MSW、事務職員からなる地域医療連携部の体制を構築した。

地域連携を円滑に進めるために、平成21年から地域の医療機関の診療機能情報を「医療機関検索システム」として病院内のシステムに登録し、現在800件超の機関が登録されている。

また、県医療計画の4疾病（脳卒中、心筋梗塞、5大がん、糖尿病）については栃木県統一クリティカルパスが平成23年度に作成され平成24年度から本格的に稼働開始している。これらについて急性期や計画策定病院としての機能を発揮できるよう支援を行っている。

相談については、当院の患者・ご家族の皆様への支援に加えて、平成24年から院内外の皆様からの「がん相談」についても相談支援を開始している。

3. 実績・クリニカルインディケーター

- (1) 診療科別紹介率一覧
- (2) 医師会別・県別紹介件数一覧
- (3) 医師会別・県別逆紹介件数一覧
- (4) 診療科別紹介件数一覧
- (5) 診療科別逆紹介件数一覧
- (6) 総合相談関係データ
- (7) 看護支援関係データ

4. 事業計画・来年の目標等

地域医療連携部の平成25年の活動方針は次のとおりです。

- 1) 第3次医療機関（特定機能病院）としての機能の充実
 - 具体的には、①入院患者の早期退院、転院を推進
 - ②2次医療機関との手術連携による機能分担の推進
 - ③急性期治療後の患者の逆紹介推進
- 2) 地域医療連携体制の構築
 - 具体的には、①4疾病地域医療連携パス導入の支援
 - ②栃木県保健医療計画への対応
 - ③附属病院地域連携研究会の開催
 - ④Jichi地域連携ニュースの定期的発行
 - ⑤医療機関検索システムの管理
- 3) 安心して地域で生活できる環境づくり支援
 - 具体的には、①退院支援の充実（相談支援の充実）
 - ②継続的な生活支援の強化
 - ③行政機関との連携
 - ④移植に関する支援
- 4) 安心して療養生活に専念できる相談体制の構築
 - 具体的には、①療養中の心理・社会的支援
 - ②社会保障制度活用の支援
 - ③医療・保健・福祉機関との連携
 - ④がん相談窓口の円滑な運営
 - ⑤患者サポート体制の円滑な運営

(1) 診療科別紹介率一覧(平成24年)

科名	紹介率(%)	
	医療法	健康保険法
総合診療部	48.1	35.5
循環器内科	89.2	76.4
消化器・肝臓内科	77.5	63.4
呼吸器内科	79.4	62.9
神経内科	76.4	56.9
血液科	84.8	69.8
内分泌代謝科	80.8	62.6
アレルギー・リウマチ科	85.2	71.1
腎臓内科	79.1	57.1
臨床腫瘍科	94.9	70.7
感染症科	10.0	5.5
緩和ケア科	77.8	38.5
(内科小計)	77.1	59.4
皮膚科	78.9	72.0
放射線科	91.6	85.0
精神科	68.5	46.4
子どもの心の診療科	50.8	45.3
小児科	51.2	34.9
心臓血管外科	87.6	71.4
小児・先天性心臓血管外科	95.7	60.0
呼吸器外科	77.8	64.3
消化器外科	79.7	61.1
乳腺科	80.9	70.2
腎臓外科	79.2	52.5
形成外科	76.5	67.1
美容外科	81.0	76.5
小児外科	85.4	84.4
移植外科	87.9	26.5
(外科小計)	81.9	67.0
脳神経外科	78.4	63.5
小児脳神経外科	59.6	49.2
整形外科	72.6	52.6
小児整形外科	68.0	60.7
産科	97.7	96.7
婦人科	71.2	56.9
泌尿器科	78.6	62.7
小児泌尿器科	85.9	84.3
耳鼻咽喉科	84.4	77.0
眼科	97.6	96.3
麻酔科	67.5	50.0
歯科口腔外科	61.1	56.9
リハビリテーション科	66.7	0.0
救命救急センター	89.0	82.3
合計	75.4	61.7

※ 平成24年4月より算定方法が変更となったため、1月に遡及して新算定方法で計算

【紹介率計算式】

A 初診患者数(ただし同日2科目は除く)

B 紹介された患者数

C 他の病院又は診療所に紹介した患者数(逆紹介)

D 救急車によって搬送された患者数

(医療法)

$$\frac{B + C + D}{A + C}$$

(診療報酬上)

$$\frac{B + D}{A}$$

(注意)

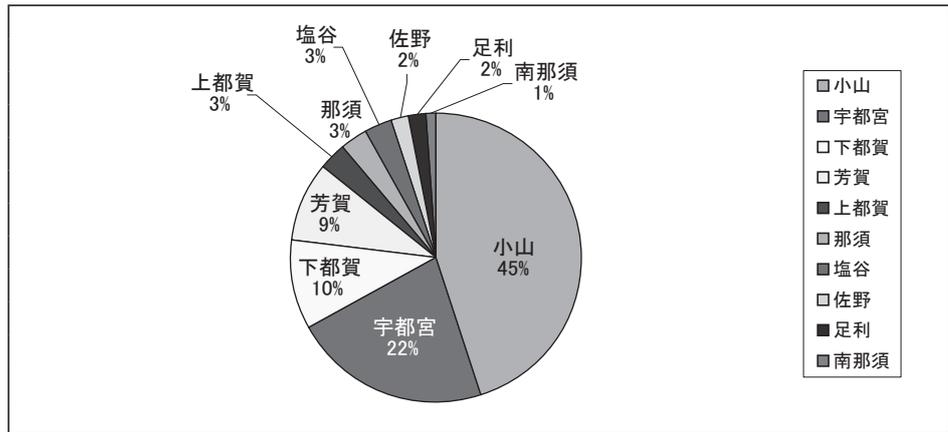
A～Dの数値は医療法に基づくもの

医療法は自費等患者数を含む

(2) 医師会別・県別紹介件数一覧

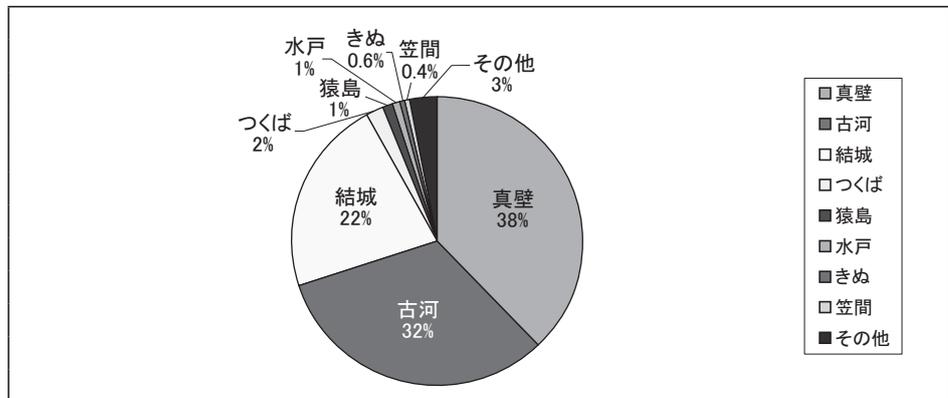
医師会別紹介件数（栃木県）

地区	累計	
	件数	%
小山	12,187	45%
宇都宮	6,066	22%
下都賀	2,708	10%
芳賀	2,499	9%
上都賀	730	3%
那須	922	3%
塩谷	778	3%
佐野	594	2%
足利	414	2%
南那須	213	1%
合計	27,111	100%



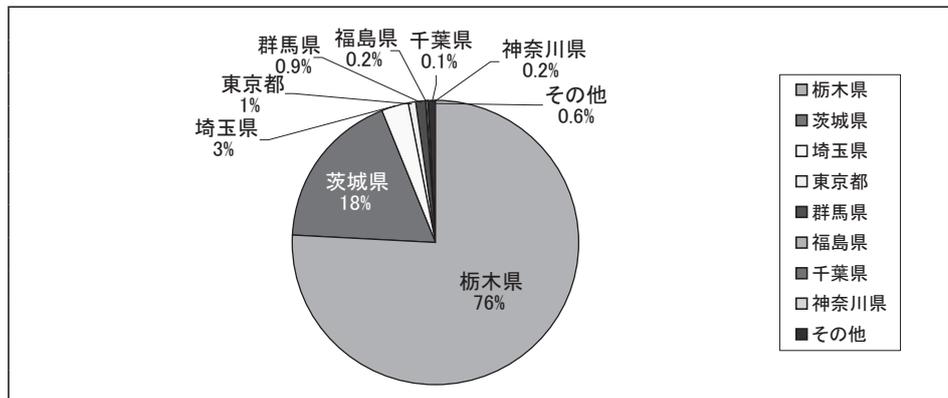
医師会別紹介件数（茨城県）

地区	累計	
	件数	%
真壁	2,447	38%
古河	2,034	32%
結城	1,441	22%
つくば	122	2%
猿島	41	1%
水戸	59	1%
きぬ	39	0.6%
笠間	31	0.4%
その他	228	3%
合計	6,442	100%



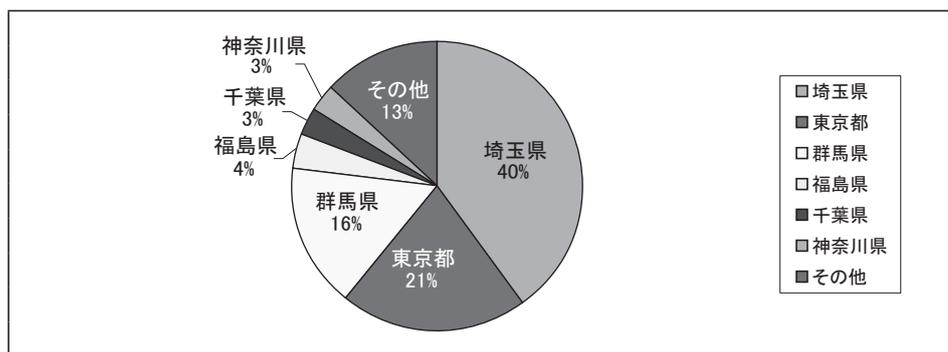
県別紹介件数

地区	累計	
	件数	%
栃木県	27,111	76%
茨城県	6,442	18%
埼玉県	803	3%
東京都	436	1%
群馬県	324	0.9%
福島県	87	0.2%
千葉県	63	0.1%
神奈川県	70	0.2%
その他	255	0.6%
合計	35,591	100%



県別紹介件数（他県）

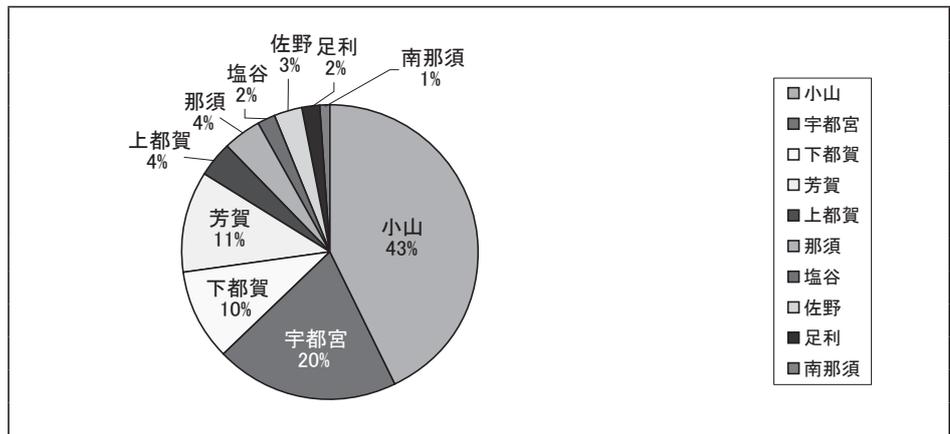
地区	累計	
	件数	%
埼玉県	803	40%
東京都	436	21%
群馬県	324	16%
福島県	87	4%
千葉県	63	3%
神奈川県	70	3%
その他	255	13%
合計	2,038	100%



(3) 医師会別・県別逆紹介件数一覧

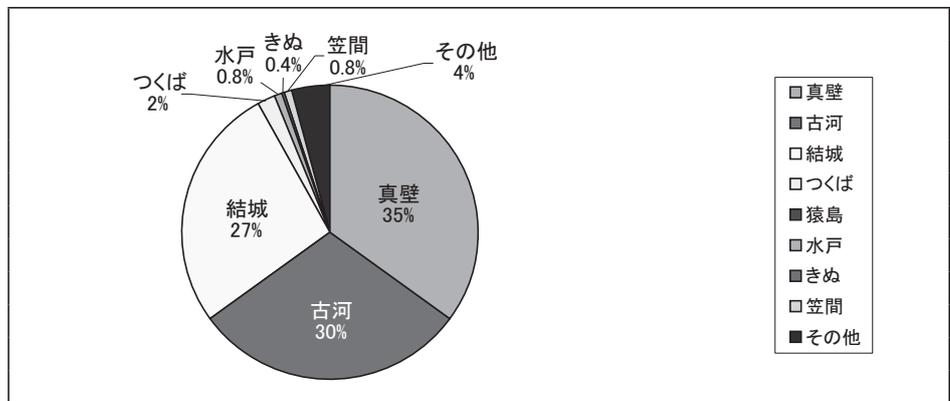
医師会別逆紹介件数（栃木県）

地区	累計	
	件数	%
小山	8,486	43%
宇都宮	3,994	20%
下都賀	2,067	10%
芳賀	2,155	11%
上都賀	742	4%
那須	857	4%
塩谷	365	2%
佐野	707	3%
足利	311	2%
南那須	186	1%
合計	19,870	100%



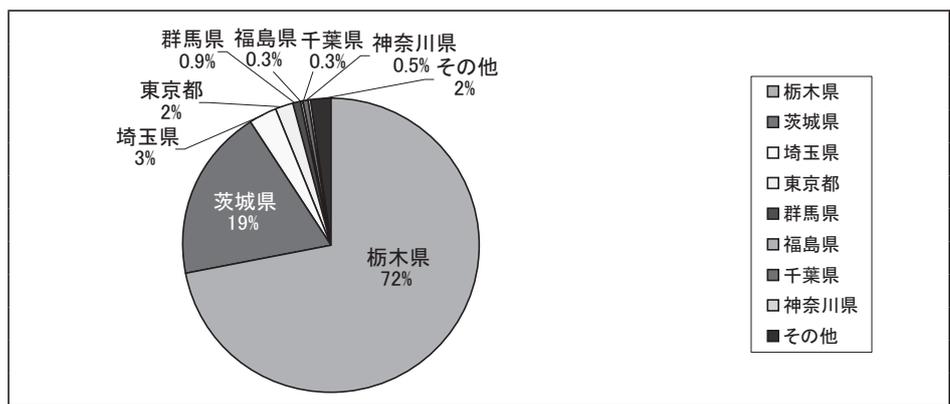
医師会別逆紹介件数（茨城県）

地区	累計	
	件数	%
真壁	1,828	35%
古河	1,549	30%
結城	1,404	27%
つくば	116	2%
猿島	1	0%
水戸	39	0.8%
きぬ	23	0.4%
笠間	44	0.8%
その他	188	4%
合計	5,192	100%



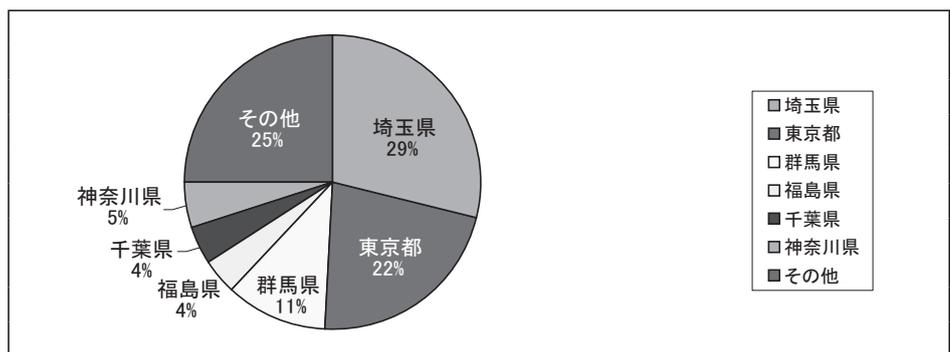
県別逆紹介件数

地区	累計	
	件数	%
栃木県	19,870	72%
茨城県	5,192	19%
埼玉県	710	3%
東京都	542	2%
群馬県	258	0.9%
福島県	94	0.3%
千葉県	86	0.3%
神奈川県	113	0.5%
その他	611	2%
合計	27,476	100%



県別逆紹介件数（他県）

地区	累計	
	件数	%
埼玉県	710	29%
東京都	542	22%
群馬県	258	11%
福島県	94	4%
千葉県	86	4%
神奈川県	113	5%
その他	611	25%
合計	2,414	100%



(4) 診療科別紹介患者件数一覧

診療科名	件数(件)	%
内科	11,257	31.6%
【内訳】 総合診療部	849	2.4%
消化器・肝臓内科	2,621	7.4%
循環器内科	2,111	5.9%
神経内科	1,227	3.4%
呼吸器内科	1,195	3.4%
血液科	585	1.6%
アレルギー・リウマチ科	1,100	3.1%
内分泌代謝科	991	2.8%
腎臓内科	578	1.6%
緩和ケア科	36	0.1%
臨床腫瘍科	68	0.2%
感染症科	11	0.0%
精神科	430	1.2%
子ども医療センター	3,251	9.1%
【内訳】 小児科	2,118	6.0%
子どもの心の診療科	156	0.4%
小児外科	394	1.1%
小児・先天性心臓血管外科	1	0.0%
小児脳神経外科	72	0.2%
小児整形外科	251	0.7%
小児泌尿器科	259	0.7%
外科	2,829	7.9%
【内訳】 乳腺科	533	1.5%
腎臓外科	105	0.3%
消化器外科	1,068	3.0%
形成外科	344	1.0%
心臓血管外科	537	1.5%
呼吸器外科	196	0.6%
移植外科	23	0.1%
美容外科	23	0.1%
脳神経外科	754	2.1%
整形外科	1,454	4.1%
皮膚科	2,136	6.0%
泌尿器科	1,051	3.0%
眼科	3,091	8.7%
耳鼻咽喉科	2,466	6.9%
産婦人科	2,498	7.0%
【内訳】 産科	1,018	2.9%
婦人科	1,480	4.2%
放射線科	823	2.3%
麻酔科	57	0.2%
リハビリテーション科	3	0.0%
歯科口腔外科	2,708	7.6%
救命救急センター	668	1.9%
合計	35,591	100.0%

(5) 診療科別逆紹介患者件数一覧

診療科名	件数(件)	%
内科	12,749	46.4%
【内訳】 総合診療部	667	2.4%
消化器・肝臓内科	2,219	8.1%
循環器内科	3,051	11.1%
神経内科	1,665	6.1%
呼吸器内科	1,179	4.3%
血液科	726	2.6%
アレルギー・リウマチ科	995	3.6%
内分泌代謝科	1,123	4.1%
腎臓内科	1,124	4.1%
緩和ケア科	99	0.4%
臨床腫瘍科	231	0.8%
感染症科	43	0.2%
精神科	487	1.8%
子ども医療センター	1,235	4.5%
【内訳】 小児科	1,055	3.8%
子どもの心の診療科	26	0.1%
小児外科	19	0.1%
小児・先天性心臓血管外科	18	0.1%
小児脳神経外科	15	0.1%
小児整形外科	80	0.3%
小児泌尿器科	22	0.1%
外科	3,037	11.1%
【内訳】 乳腺科	289	1.1%
腎臓外科	136	0.5%
消化器外科	1,329	4.8%
形成外科	180	0.7%
心臓血管外科	874	3.2%
呼吸器外科	157	0.6%
移植外科	67	0.2%
美容外科	5	0.0%
脳神経外科	697	2.5%
整形外科	1,497	5.4%
皮膚科	873	3.2%
泌尿器科	819	3.0%
眼科	1,337	4.9%
耳鼻咽喉科	1,202	4.4%
産婦人科	1,235	4.5%
【内訳】 産科	232	0.8%
婦人科	1,003	3.7%
放射線科	175	0.6%
麻酔科	55	0.2%
リハビリテーション科	3	0.0%
歯科口腔外科	891	3.2%
救命救急センター	811	3.0%
合計	27,476	100.0%

(6) 総合相談室

【医療ソーシャルワーカー (MSW)】

総合相談室は、目標として掲げた「安心して療養生活に専念できる相談体制の構築」を意識しながら、①療養中の心理・社会的支援 ②社会保障制度活用の支援 ③医療・保健・福祉機関との連携 ④がん相談窓口の円滑な運営 ⑤患者サポート体制の円滑な運営等の充実に取り組んだ。

特徴的なことを、3点挙げる。

- ①平成24年度診療報酬改定において、患者とその家族からの相談業務（軽微から厄介な苦情を含む）に診療報酬点数の算定が可能になり、病院収入の確保と増収に貢献できた（4月～12月までの実績は、1,155件、11,835,072円）。
- ②がんに特化したがん相談支援室の設置に伴い、2月にがん情報コーナー（患者相談室内）を開室した（火・木／週2回）。「患者必携 がんになったら手に取るガイド」の閲覧／国立がんセンターが発行する各種冊子の閲覧・提供／がんに関する書籍・患者会に関する情報／がん患者・家族向けの催し物の案内／各種医療費制度の冊子等の情報を得ることができる場の確保につながった。
- ③社会保障制度の手引書を2種類作成した。産科の患者・家族に向けた「妊娠中・出産にかかる医療費」のパンフレット。がんの患者・家族に向けた「がんの療養情報 - 利用できる社会資源とサービスの種類 -」の冊子。

1) 相談ケース数

図-1は相談ケース数である（実11,990件／延23,775件）。

ここでは「実件数（新規・再規・継続ケース数）」と「延件数（MSWの1行為を1件数としてカウントする。東京都福祉保健局・東京都医療社会事業協会による統一されたカウント方法）」の2種類の数を用いている。

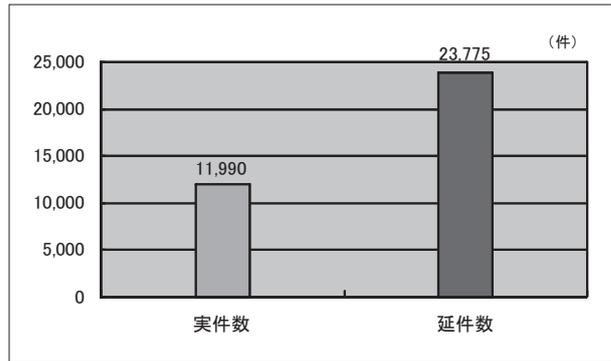


図-1 相談ケース数

2) 相談ケース数内訳

図-2は相談ケース数の内訳である。

実件数と延件数を「一般相談（附属病院）」・「がん相談（地域がん診療拠点病院）」・「子ども相談（とちぎ子ども医療センター）」に3分類している。

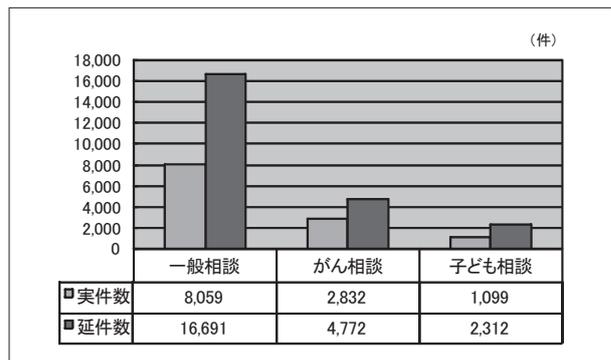


図-2 相談ケース数内訳

3) 相談内容別件数

図-3は相談内容別の件数である（26,201件）。1回の相談で複数の相談を受けた場合は複数カウントしている。

全体的に「療養中の心理・社会的支援」「退院支援」の数が全体の7割を占める。

特に、「療養中の心理・社会的支援」には、外来・入院患者が疾病をもって生活することへの不安や生活のしづらさに対する環境整備（医療・看護・介護体制）、入院先の紹介等を含んでいる。

「退院支援」には療養の場の方向性の検討段階から介入し、在宅療養を整える支援や転院にともなう支援を行っている。

がん相談内容の中の1つである、医療費に

関する相談の傾向として、今までは「利用できる制度はないか」という相談が多かったが、最近では高額な医療費に伴い治療を継続するか否かといった相談が増えている。入院期間の短縮、通院での治療が主流になりつつあることもあり、高額療養費制度の利用条件に該当せず、毎月数万円の自己負担を支払わなければならない深刻なケースも増えている。

その他にも治療や告知のこと、将来の不安、医療者との関係等の相談も多く、その内容も多様化・複雑化してきている。他職種との調整が必要な場合は早期に連携を図り、不安を軽減できるよう支援している。

子どもに関連する産科・小児科の相談内容は、飛び込み出産、若年出産・未婚での出産、精神疾患を伴った出産、虐待、医療依存度の高い患児の退院支援が目立っている。また、チーム医療の必要性が高いことから、情報の共有等を含め内外機関との連絡調整やカンファレンスの実施比率が高くなっている。

科・神経内科・小児科・産科が全体の5割以上を占めている。また、全体の3割ががんに関連する診療科である。

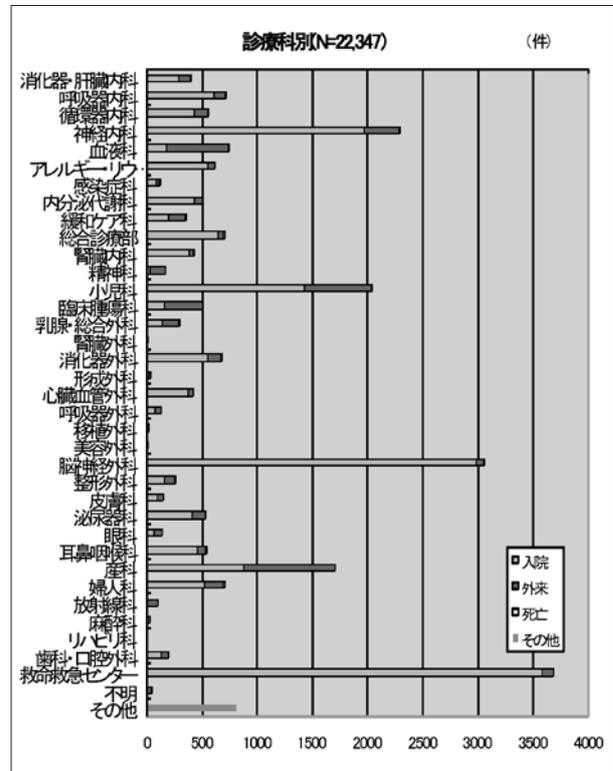


図-4 診療科別相談件数

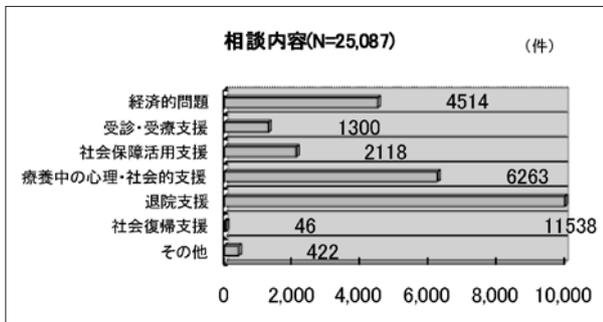


図-3 相談内容別件数

図-3のとおり、全体的に言えることは患者家族の相談の背後にある不安・気がかりを傾聴していく中で、経済的・受療・社会保障活用に関する複数の問題が判明することが多く、利用できる可能性のある制度を情報提供しながら、院内各部門との連携を図り適切な相談機関に確実に繋がるよう複合的な支援に努めている。

4) 診療科別件数

図-4は診療科別の相談件数である(23,775件)。

診療科は、救命救急センター・脳神経外

5) まとめ

3次救急やがん診療拠点病院など先進医療を提供する当院におけるMSWの役割は、実際に問題が生じ相談を受けてから援助業務を開始するのではなく、生活と疾病の状況から生じる諸問題に対し適切な時期に適切な介入をしていくことが求められている。

特に、救命救急センター(自殺企図・熱傷・交通外傷患者)や脳卒中センター(手術適応外の軽症な脳出血患者)に対して、積極的にカンファレンスに参加し、入院早期の時点からMSWが介入することによって、退院支援を阻害しやすい要因(住所不定・無保険・単身者の患者)を早期に発見し、対応策を講じやすい環境を生み出すことができた。その結果、他職種との連携による円滑な退院移行支援に結びつけることができた。しかし、重複疾病・障害や精神症状を併せ持つ患者に対する退院支援体制の構築などは、数・時間だけでは反映され難い専門的な介入が必要になっていると言える。

(7) 看護支援室

《附属病院・とちぎ子ども医療センター》

前年度と集計方法を変更した項目があるため、2011年の数値も一部掲載。

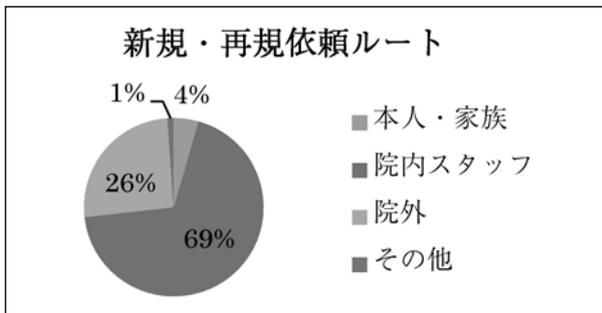
◆延べ相談件数	2011年	13,531件
	2012年	15,356件

◆延べ相談者数	2011年	6,823人
	2012年	7,698人

◆相談者内訳

	2011年	2012年
内訳		
新規・再規	1,043人	1,064人
継続	5,780人	6,634人

※再規とは、最終対応日から3ヵ月以上経過した場合。

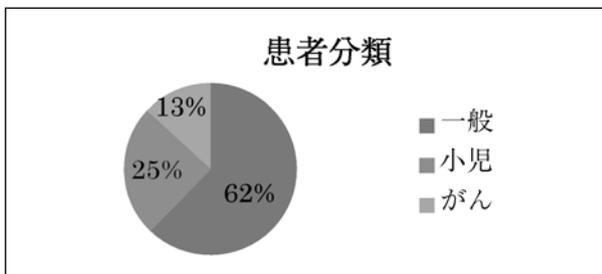


初期介入の依頼は、院内スタッフからの連絡が多いが、年次推移に大差はない。

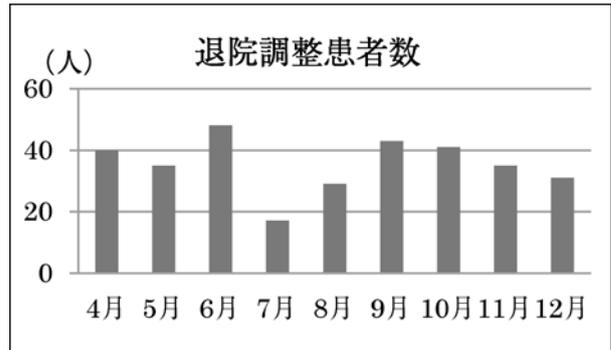
◆相談方法

	2011年	2012年
電話相談	69%	68%
対面相談 (多職種協議を含む)	31%	32%

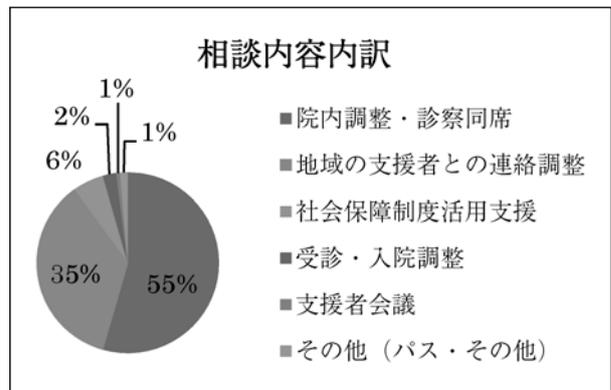
保健行政・福祉機関、他医療機関等の相談窓口でもあり、7割近くは電話相談であるが、年次推移に大差はない。



一般には、成人で、がん以外の疾患患者、妊婦が含まれる。



4月～12月の退院調整患者は319名。月平均35名である。支援に要した期間は、成人（産科を除く）で平均12日（中央値：8日）、小児で平均32日（中央値：14日）である。



※重複回答あり

相談内容の9割は、院内および地域の支援者との連絡調整である。この中には、入院中の退院に向けた在宅療養調整だけでなく、外来通院中の継続支援も含まれている。

◆拠点病院としての業務

1) 神経難病医療ネットワーク推進事業

神経難病医療ネットワーク推進事業では、患者・家族に対して通常の療養相談に応じ、一時入院支援事業（レスパイト入院）の調整を行っている。また、年1回の医療従事者向けの研修会を開催している。

2) 肝炎対策事業

肝炎対策事業では、肝疾患相談を中心に行っており、2012年は21件の相談があった。県内外問わず相談を受け付けており、電話相談が主である。

3) がん対策推進基本計画

がん対策推進基本計画では、5大がん（胃・大腸・肝・肺・乳腺）のがん診療地域連携クリティカルパスの運用を行っており、新規導入3件、離脱1件である。また、2011年7月の開始以降、9件（胃5件、肝臓3件、肺1件）が現在運用中である。

《移植再生医療センター》

－肝移植－

2012年、肝移植コンサルト目的の新来患者数は15人であった。また、2012年当院で行われた生体肝移植数は14例である。脳死肝移植希望者には、日本臓器移植ネットワークへの登録の手続きを行った。患者（患児）・家族が移植に関する情報を知り、理解・納得した上で意思決定できるよう支援している。初診から待機期間、術前、術後にわたり身体的・心理的・社会的状況の把握に努め、レシピエント、ドナー、御家族の継続的支援を行っている。支援の強化のために、移植に関わるスタッフと連携を図り調整を行っている。

－腎移植－

2012年 生体腎移植24件

2012年 献腎移植3件（脳死下2件・心停止下1件）

2012年 献腎移植希望登録13件

＜業務内容＞

- ・生体腎移植希望での来院者説明 27件
- ・献腎移植登録希望での来院者説明 15件
- ・腎移植説明を行った患者 3件

2012年7月末現在で日本臓器移植ネットワークに献腎登録をしている方は169名である。

献腎登録患者、生体腎移植希望患者は、昨年と変化は見られなかった。

－他の活動－

- ・「第5回栃木県の臓器移植医療を考える」講演会の開催
- ・臓器移植啓蒙活動（ポスター掲示、小冊子配布）
- ・脳死下臓器提供 1件